

令和2年度 北海道白糠養護学校 学校評価の結果

令和2年12月4日 教頭

A：とてもできている（4点）、B：ほぼできている（3点）、C：あまりできていない（2点）D：できていない（1点） 平均3.0点を基準とする。

1 教職員による学校評価

昨年度に比べて総じて評価が高く、職員の取り組みの成果が反映されている。コロナ禍の影響で点数が低い部分も見受けられ、今年度の反省を新しい働き方に生かしていく方策が必要となる。

【教職員①】比較的评价が高かった項目（平均点3.4以上）

6 児童生徒会会計	【3.4点】
32 防災・防犯	【3.6点】
37 事故マニュアル	【3.4点】
40 環境衛生の維持	【3.5点】
42 ニーズに基づいた指導	【3.4点】
42 感染症の予防と指導	【3.6点】

【教職員②】昨年に比べ評価が高くなった項目（平均点0.3以上向上）

7 学園や関係機関との連携	【2.9→3.3点】
15 事故マニュアル	【3.1→3.4点】
23 ハラスメント	【2.6→3.1点】
24 時間外勤務	【2.5→3.1点】
26 カリキュラム・マネジメント	【2.9→3.2点】

【教職員③】改善を要すると考える項目（平均点3.0未満）

4 生活年齢を意識した指導	【2.9点】（各学部）
8 地域の人材活用	【2.6点】（各学部・教務）
9 校外学習など	【2.8点】（各学部・教務）
12 PTA活動の活性化	【2.7点】（PTA事務局）
20 効果的な校内研究活動	【2.8点】（研究）
21 学校課題を踏まえた校内研修推進	【2.8点】（各学部・研究）
22 研修への参加と専門性向上	【2.8点】（相談・研究）

【教職員④】昨年に比べ評価が低くなった項目（平均点0.3以上下落）

9 校外学習など	【3.2→2.9点】
----------	------------

(1) 4 生活年齢を意識した指導

【2. 9点】(各学部)

生活年齢を意識した指導など、児童生徒の人権を尊重した教育活動に取り組んでいる。(中学生・高校生らしい授業、呼称、体罰を許さない体制づくり、児童生徒の見本となる言動等)

昨年度まで3.0であったスコアが2.9へと下落している。また、自由記述では「あだ名での呼称」「名字呼び捨て」「生活年齢に即した接し方」についてそれぞれ指摘がある。保護者アンケート No. 8 では平均点は3.5であるが、Cをつけている保護者もいる。児童生徒に対する職員の適切な呼称・接し方についての情報共有など、各学部での反省事項として検討を要する。

(2) 8 地域の人材活用

【2. 6点】(各学部・教務)

教育活動の中で、地域の人材や施設などの教育資源を積極的に活用している。

(3) 9 校外学習など

【2. 8点】(各学部・教務)

交流及び共同学習、校外学習などを通し、地域の障がい者理解の促進に積極的に取り組んでいる。

今年度はコロナ禍で外部の方の入校制限があった。また、校外学習自体も実施の制限があったため、積極的な活用は学校の方針として行っていない。評価の下落は当然の帰着であるが、次年度以降コロナ対策がベースとなった学習活動が予想されるため、新しい人材や教育資源の活用方法を検討する必要がある。

(4) 12 P T A活動の活性化

【2. 7点】(P T A事務局)

保護者と職員の協力体制の下、P T A活動の活性化が図られている。

昨年度より向上しているが、3.0を割り込んでいる。1学期はコロナ禍で保護者の来校について制限があり、活動自体も集合する取り組みは実施できていない。そのような状況で評価の下落は当然の帰着ではあるが、コロナ対策を加味した新たな取り組みを事務局で検討するなど、年度後半にかけて着実に動き出している部分もある。

(5) 20 効果的な校内研究活動

【2. 8点】(研究)

研究主題、研修計画に沿って、効果的な校内研究活動を進めている。

研修・研究の大項目ですべて3.0を割り込んでいる。自由記述欄に具体的な指摘がないため観点が難しいが、効果的な校内研究活動に向けて改善点を検討する。

(6) 21 学校課題を踏まえた校内研修推進

【2. 8点】(各学部・研究)

学校課題を踏まえた計画的・組織的な校内研修の推進が行われている。

(7) 22 研修への参加と専門性向上

【2. 8点】(相談・研究)

校外への研修会等へ積極的に参加するなど、自己研修に努め、専門性の向上を図っている。

服務研修、保健研修、相談支援部研修、ICT研修など計画的・組織的に行っている研修も多い。逆に、コロナ禍で計画していたサマーセミナーが形態を変えての実施となったり、指導主事訪問日に合わせてICT等に関する研修会を実施したり、夏季休業中に受入可能な福祉事業所のみで施設見学を実施したりしており、これらは即時対応の典型ではあるが、計画的かという観点ではスコアが下がる要因であったと思われる。関連して自由記述欄には「小中高の交流」の必要性も指摘されている。一方で昨年度から研修会等への参加についてスコアが低い。教員の自己研鑽のモチベーションをどのように向上させるかは職員個々の問題であり学校的な課題とも言える。こういった個人に帰する問題と、校内研修推進の観点で組織としての改善、といった二つの観点での検討を望みたい。

2 保護者・学園職員による学校評価

学園職員による評価については、総平均が高く、多くの項目で基準とする点数を超えている。また、保護者からは回答数が少なく判断が難しいが、指摘を受けた部分は真摯に反省し、次年度へ生かす必要がある。

【保護者・学園職員①】比較的评价が高かった項目（平均点3.4以上）

※項目が多いため、列举しません

保護者 15 / 21 (71%)

学園 7 / 21 (33%)

【保護者・学園職員②】昨年に比べ評価が高くなった項目（平均点0.3以上向上）

※項目が多いため、列举しません

保護者 10 / 21 (48%)

学園 0 / 21 (0%)

【保護者・学園職員③】改善を要すると考える項目（平均点3.0未満）

19 学校の様子や取り組みの説明 【2.8点 保護者】(学芸)

20 地域への支援 【2.8点 保護者】(相談)

【保護者・学園職員④】昨年に比べ評価が低くなった項目（平均点0.3以上下落）

19 学校の様子や取り組みの説明 【3.1→2.8点 保護者】

20 地域への支援 【3.3→2.8点 保護者】

3 子どもたちとの信頼関係 【3.5→3.1点 学園】

4 連携して支援計画作成 【3.6→3.2点 学園】

5 子どもの状況に沿った指導目標 【3.6→3.1点 学園】

6 意欲を育てる授業 【3.6→3.1点 学園】

7 集団指導、個別指導を効果的に取り入れる 【3.6→3.3点 学園】

9 教員同士の協力 【3.4→3.1点 学園】

10 事故等の未然防止 【3.6→3.1点 学園】

14 目標、評価、授業の意図等の説明 【3.6→3.3点 学園】

17 学校生活を安心して過ごすための学園との連携 【3.5→3.1点 学園】

21 保護者や地域から信頼されている 【3.4→3.0点 学園】

(1) 19 学校の様子や取り組みの説明 【2.8点 保護者】(学芸)

学校は、授業参観、学校公開、学校だよりやホームページ等を通して、学習の様子や学校の取組を説明し、保護者や地域への理解を図っている。

コロナ対策もあり、授業参観は計画しながら学校方針で中止となった回がある。また、学校公開は1回目を中止としている。学校便りの回数は例年と不変であり、HP更新は昨年度より更新回数が増えている。より質の高い発信に対する工夫と、保護者への周知説明をどのように行っていくか、検討が必要である。

(2) 20 地域への支援

【2. 8点 保護者】(相談)

学校は、地域の幼稚園・保育所・小学校・中学校・高校から相談を受け、地域の子どもたちの支援を行っている。

地域の子どもたちへの支援の状況については、保護者・学園に説明する機会が少ない。必要な方策について検討をお願いしたい。

(3) その他(平均3. 0以上の話のため、あくまで参考)

特に学園の評価について、昨年度と比べて0. 3ポイント以上下落した項目が多い。

指導目標や授業の目的など、懇談の場で意見・質問を聞きながら伝えたり、日々の交流が十分に機能しているだろうか。また、学園との連携については、双方の解釈に齟齬が見られる。学校側は学園との連携に向上を感じているが(【教職員②】 7 学園や関係機関との連携【2. 9→3. 3点】)、一方で学園職員は連携に後退を感じている可能性がある(【保護者・学園職員④】17 学校生活を安心して過ごすための学園との連携【3. 5→3. 1点 学園】)。

こういった状況をどのように解釈するか、私たちの関わりを振り返る必要があるかもしれない。学校からすると、昨年度までの補装具等制作の遅延を受けて、今年度から学園との支援会議を強化しており、子どもたちの適正な環境整備において大きく進歩した部分でもある。そこに果たして学園とのひずみはないか、再度確認する視点も必要である。お互いに大切なパートナーであるため、前向きな検討を期待したい。